

団体名：フードバンク北関東（NPO 法人三松会）

代表者名：塚田一晃

電話：0276-75-4732

事業規模簿：〇〇万円 ボランティアスタッフ数…0人

施設配布先：115 施設

活動地域：群馬県全域、栃木県南部、埼玉県北部、茨城県西部

住所：群馬県館林市高根町 109

事業概要

フードバンク北関東は、源清寺（曹洞宗）副住職が理事長を務める NPO 法人三松会が母体である。

三松会は平成 7 年から主に以下の 5 つの事業を行う。

①身寄りのない方、生活困難者、生活保護受給者など、諸々の事情がある方の葬祭を執行する活動を行う。また、無縁墓地ではない共同墓地を所有し、行き場のない遺骨や諸々の事情がある方の遺骨も埋葬している。

②成年後見制度においての法定・任意後見人等の対応をする後見人活動や身寄りの無い方の入院、老人施設入所の際の身元引受等の支援をする孤独死予防センター活動

③社会福祉活動（民生委員・福祉職・福祉行政）をする方へ無縁高齢者・困窮者への寄り添いにおけるを行う研修活動

④各種施設等に対し、ポップコーン・綿菓子無料模擬店や、各種施設の職員や地域の有志、三松会スタッフなどで結成した阿波踊りの連「みまつ連」で慰問活動を行う。

⑤平成 13 年に NPO 法人を所得し、平成 22 年からフードバンク活動を開始。平成 24 年からフードバンク部門をフードバンク北関東とし活動を強化。

ポイント

【定期的な集荷・配送】

コストコ（前橋市）へ週 2 回引取りに行き、主に在宅支援が必要な個人世帯及び福祉施設・団体（締結施設 115 箇所）に対し、事務所倉庫への集荷（遠方の施設）、もしくは、月 2 回のルート配送で寄贈品の配布をしている。

【学童クラブを通じた個人支援】

地域の学童クラブへおやつやジュース、調味料、パンなどを提供している。

理由は、主に以下の 5 点である。

① 地域柄、ひとり親家庭が多く、学童費の滞納やおやつ代の支払いが困難な世帯がいる。その世帯の困窮具合の情報を職員の方が理解しているので、職員を通じて必要な世帯に対して調味料やパンなどの食糧支援ができる。

⇒フードバンク食品で食費を補填することにより、継続的に学童費用を支払うことが出来、ひとり親家庭でも継続的に仕事しながら子育てを続けられることができる。

② 親の学童費用支払いの有無に関わらず、こどもは学童に来るので、すべての子どもに対して、均一におやつを出さなければならない。

また、19 時過ぎまで学童にいる子どもには、夜食を出すことも多いが、学童としての予算がなく、職員の自己負担で賄っていることがある。

上記の理由から、フードバンク食品が来る以前は、予算外の部分で運営をしなければならないことがあったが、定期的にお菓子・飲み物・主食が来るので、運営上助かっている。

③利用者の中には、学童費用の支払いがギリギリで、低賃金で働いている、一人親家庭もある。学童側として、病気の場合や夏休み期間中及び、5,6 年制も預かってくれるので、親御さんの心と就労の安定化につながる。

利用者の増減により、経営上厳しい状況が続いた場合、学童費用があがる可能性もありえる。

費用を払えなくなった場合、学童の利用を止め、子どもの面倒を見る時間が増えることにより、労働時間の短縮、転職もやむを得ない状況も発生する。その場合、収入が落ち、ワーキングプアーに落ちてしまうこともある。

フードバンク食品があることにより、補助的に運営費用を抑えることができる。利用する世帯側として、今は困っていなくても継続的に幅広く利用して頂く事でのセーフティーネットの役割もある。

④学童クラブを通じて、子どもや親に、父母会でもフードバンク食品の話をする事により、口コミに必要な世帯に行き渡っており、学童の職員の方と情報交換をしている。

⑤フードバンク活動へのパートナーとして、学童クラブの職員がボランティアとなって、個別支援が必要な個人世帯へ宅配をしていただいている。

現在、学童クラブ4軒が12世帯へ宅配支援中。

【行政・施設・病院との連携】

フードバンク活動を行う以前からNPO法人三松会は、行政・介護施設・総合病院などの機関と連携し、身寄りのない方、生活困窮者、事情がある方の相談を受け、身元引受の対応をしている。

食糧が必要な個人に一時的または、継続支援を行う。基本的に、行政対応の際は、職員の方が必要なタイミングで食品の引き取りに来ることが多い。

更に、ホームレスの方が入院するなどの場合、衣服の着替えタオル・コップなどの日用品のリサイクル品も無償提供する。

退院後の生活が安定するまでフードバンクでの支援を行う。

【地域での活動】

事業概要にもある通り、行政や民生委員向けの研修会や勉強会で、三松会での活動の話をする事があるので、その方を通じて食糧支援の要望がある。

そのため、民生委員の日常的な支援の中で食糧を活用している。

【自主事業でのフードバンク活動】

助成金・補助金などを利用せず、NPO法人三松会の活動の一環としてフードバンク活動を行っている。フードバンク事業は、有給職員1名が専属となり、他スタッフ10名が寄贈品の引取り、入庫時の受取り、配布等を手伝う。

取り組みの経緯

2001年にNPO法人化し三松会とし活動して行く中で、食品に困った方を目の当りにするようになった。当時は、お寺にあがったお供物や実費で購入した食品を渡し応急対応をしていた。

しかし、年々相談者が増え、食に困った方も多く目の当りにし、同じ宗派のお寺に協力してもらい、加工品やお菓子など集めて支援していた。

2008年には「自殺防止ネットワーク風」の活動として電話相談を受けるようになり、せめて食べる事さえ出来れば、自殺に思い立たず、気持ちに少しは、余裕が出来るはずだと痛感したこともあった。

自殺防止ネットワーク風の理事長でもある、曹洞宗長寿院住職 篠原老師に、どのような方も等しく食に対して、満足出来るシステムを構築したいと相談したところ、篠原老師がセカンドハーベストジャパンの存在を教えてくれ紹介に至った。

2010年4月フードバンク活動を安直に考え活動を開始しようと考えたが、食品企業は簡単に提供してくれることは、ほとんどなかった。

配布先はもともと三松会の活動で多くの施設と付き合いがあったことが助けになると考えたが、各施設にフードバンク活動を理解してもらうのは簡単なことではなかったが、本格的にフードバンクを行う事を決定した。

以下、フードバンク活動経緯

2010年5月より2hjによる研修を1年間受ける

2011年5月より行政へ応急支援食品の対応開始
2011年9月よりコストコ引取り開始
2011年10月 専属職員を配置
2012年8月よりフードバンク部門をフードバンク北関東とする
2013年3月よりフードドライブを開始予定

活動方針

身寄りのない方や行政支援を受けにくいレベルの「困った人を助けよう」を方針とし、在宅の個人世帯を1人でも多く支援する。

介護施設や学童などにも配布しているが、困窮率が高い施設を優先し配布する。

学童での在宅支援の事例のように施設の職員がボランティアとなり、在宅支援ができる協力施設を増やしていく、ネットワーク作りを目指す。

活動事例

学童クラブと連携し在宅支援が必要な方へ食品宅配を行ってもらっているが、その学童クラブのエリア内に宅配してもらうことによって、支援者の情報や安全を確認するパトロールも兼ねる事もできる。

学童関係の父母や地域貢献活動に興味ある方、民生委員の方からは、活動に賛同していただいている。少しずつ、フードバンク活動の認知度を上げると共に地域全体で見守って行けるような取り組みとなっている。

一方で、一般消費者などの全く活動とは関係のない、個人からは、フードバンクに対応しての認知度が低い。母体がお寺で、身寄りのない方の引受や生活困窮者支援をしているので、変なうわさ話や商売だと思われ、警戒されることもあり、また説明も聞いてもらえない事もある。

提携食品企業

定期：コストコ前橋倉庫店 毎週2回（全体取扱量の4割）

不定期：おおぎやラーメン、ココファーム、館林うどん、マルハン、デサンジャパン

その他2h j から 全体取扱量の5割

成果と課題

行政の認識では、無償でいくらでももらえる、という感覚があり、生活困窮者や生活保護受給者に対して気安く提供して下さい、と案件を振られる事がある。ただ、最近は生活保護受給の可否や生活状況などを確認しながら提供の必要性を検討し、行政窓口へ返すこともある。

しかし、一方では本業の葬祭事業、後見人事業などの行政からの仕事を多く頂いているので、一概に対応を強気にする事が憚れている。

2h j とコストコから提供される食糧を基本とした活動なので、より在宅個人の支援を広げてゆかために、フードドライブを行い、少量多品種の缶詰めやレトルト食品を集めて行きたい。